

## I スクール・ミッションと3つのスクール・ポリシー

### <スクール・ミッション>

「情熱・誠実・理想」を校訓に掲げ、多くの保護者や地域に支えられる『地域に根ざし、地域に信頼される学校』として、生徒の第一志望校への進路実現に向けた教育活動を実践します。特に理数教育と国際理解教育を通して、自ら学び続け、社会の中で主体的に行動できる人間を育成します。

### <グラデュエーション・ポリシー>

自ら学び続け社会の中で主体的に行動できる人間、「自立した学習者」の育成を目指します。

### <カリキュラム・ポリシー>

本校の教育課程において、次の資質・能力の育成を目指します。

- ① 常に探究心をもって、学び続ける力
- ② 主体的に考え、行動する力
- ③ 失敗を恐れず、何事にもチャレンジする力
- ④ 他者とコミュニケーションを図り、社会に貢献する力

### <アドミッション・ポリシー>

本校は、「情熱・誠実・理想」を校訓とし、生徒と教職員の信頼の下に、緑の多い静かな環境の中で教育を行っています。本校の期待する生徒の姿は次の5点です。

- ① 学習活動に目的意識をもって努力し、主体的に学習に取り組むことができる生徒
- ② 将来の生き方や進路に関して常に考え、進路目標実現に向けて努力して、自らを高めることができる生徒
- ③ 部活動、生徒会活動や学校行事に継続して積極的に取り組む意志をもち、責任を果たすことができる生徒
- ④ 各種のボランティア活動等に積極的に参加し、社会貢献を果たそうとする姿勢・意欲をもつことができる生徒
- ⑤ 社会生活の基本が身に付いており、ルールを守り自己に厳しくけじめのある学校生活を送ることができる生徒

## II 中期的目標と方策

### <目 標>

- 1 知ることの喜びや探究する方法を学び、知的好奇心を弾みに主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、一人1台端末の授業での活用を推進し深い学びの実現を目指す。
- 2 組織的な進路指導を行い、より高い目標の実現を目指すとともに、進路指導部・学年・教科が互いに連携し進学実績を向上させる。
- 3 特別活動への取組を通して豊かな人間性や資質を育み、自主性や他者への貢献の心を涵養する。
- 4 凡事徹底を実践し、社会人として通用する規範意識の確立を図るとともに、安全・安心な学校生活を送れる環境を整備する。
- 5 心身共に健康な生活を送れるよう健康保持や体づくりを進めるとともに、相談できる体制を充実する。
- 6 東京都から指定された「海外学校間交流推進校」事業を推進しグローバル人材育成教育を進め、多様性を尊重し共生社会の実現に向けて貢献できる人材の育成に努める。
- 7 教育内容や教育活動の成果などを発信し、広く都民に信頼される学校づくりを進める。
- 8 全教職員が課題を共有し、「チームキョコウ」で一丸となり協力して課題解決に取り組むとともに、各分掌における効率的な校務運営に取り組む。

### <方 策>

- 1 探究的な学びを推進し考え抜く力や知識や技能を活用する力を育成し、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢を養うとともに、一人1台端末の授業での活用により生徒一人一人に応じた指導を行う。
- 2 進路指導部主導の計画的、継続的、組織的な進路指導を教職員全員で実施し目標の早期設定や高い志の維持等を図るとともに、データ分析、定点観測及び大学進学情報を提供し生徒の第一志望校への進路実現に取り組む。

- 3 部活動や学校行事において、努力することの大切さや達成感を体感させ、仲間への連帯感や学校への帰属意識を育成する。
- 4 あらゆる機会を通して、社会人として通用するマナーを身に付けさせるとともに、学習環境等の整美に努める。
- 5 保健指導等を通して心身の健康管理の意識を高めるとともに、生徒・保護者の相談体制を整える。
- 6 海外学校間交流推進校事業の推進により「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。
- 7 保護者・地域及び中学校等に対してホームページ等を通して教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。
- 8 ICTを活用するなどして、企画調整会議を核に学年会、分掌部会、経営企画室との情報の確実な共有により「チームキョコウ」で教職員が一丸となり組織的な校務運営に努める。

### Ⅲ 今年度の目標と方策

#### 1 学習指導

##### <目 標>

生徒の高い学力の定着と探究的な学びの充実

##### <方 策>

- (1) 授業での学習のねらいの明示、知識・技能を活用して探究する場面の設定、話し合いや発表活動、一人1台端末の活用等により生徒の興味・関心を高め主体的な学びを実現するとともに、オンライン教育を活用し生徒の学びを保障する。
- (2) 学年と教科の調整に基づく適量の学習課題を提供し、生徒の授業以外の学習時間確保を促進する。
- (3) 統合型学習支援システム・教育ダッシュボード等のデジタル技術を活用した授業改善に取り組み、生徒の学習状況に応じたきめ細やかな学習指導を行い、難関大学に果敢にチャレンジできる学力を身に付けさせる。
- (4) 考査・実力テスト、外部模試や授業評価を基に教科としての課題を明確にするとともに、授業改善につなげて生徒の高い学力を定着させる。
- (5) 組織的に「総合的な探究の時間」の充実を図る。生徒の探究的な学びを一層充実させデータ分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力等の向上を図る。
- (6) 生徒の理数に対する興味・関心を高めるとともに、各種科学コンテスト等への参加促進により理数に対する資質・能力の一層の伸長を図る。
- (7) 教員相互の授業見学、生徒による授業評価の活用、指導教諭の授業見学等により、教員個々の授業力向上と教科指導力の向上を図るとともに、授業改善に向けた校内研修を実施する。
- (8) 生徒の知的好奇心を醸成するために、図書の貸し出し数、図書館利用率を高め、読書活動を推進する。
- (9) 自習室や廊下の学習機の適切な活用を推進し、自学自習を定着させる。

#### 2 進路指導

##### <目 標>

生徒に高い志をもたせ、生徒の第一志望校への進路実現を果たす指導

##### <方 策>

- (1) 進路指導部が作成した3年間の進路指導計画・面談計画、キャリアプランに基づく組織的、系統的な指導を進路指導部・学年・教科の密な連携のもと推進し、生徒の高い志を育成する。
- (2) 進路ガイダンス、訪問授業、上級学校訪問等をタイムリーに実施し、進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促し、第一志望校を諦めさせない指導を行う。
- (3) 年3回以上の個別面談、うち1回は三者面談の実施により「進路を自ら考え、選択できる力」を育成するとともに、保護者と連携し生徒一人一人に応じたきめ細かい進路指導を行う。

- (4) 迅速なデータ検証を基にした教員主導の模試分析会・ケース会議を早期に実施し文系・理系ともに進路先を開拓するとともに、個に応じた教科指導の改善、指導に反映させる。
- (5) 進路指導部・学年・教科が互いに連携し組織的に学期中及び長期休業中の講習を実施し、生徒の軸足を学校に置いた指導を行う。

### 3 特別活動・部活動

#### <目 標>

学校行事、部活動の活性化により多様な人と共に、目標に向けて協力する力の育成

#### <方 策>

- (1) 学校行事への取組を通して、生徒の自主的、主体的な活動を推進する。
- (2) 障害のある児童・生徒等との交流を通して、多様性を認め合う精神の涵養及び障害者理解を推進する。
- (3) 東京都の部活動ガイドラインにある週に2日の休養日設定や平日は2時間以内、休日は3時間以内の活動時間等を遵守した部活動に係る活動方針を明確にし、学習活動と部活動の高度な両立を図る。
- (4) 体罰や不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な指導を徹底し、生徒の人権を尊重した部活動を運営する。
- (5) 部活動指導員及び外部指導員を活用し、部活動指導の効率的なシステムを整備する。

### 4 生活指導

#### <目 標>

社会人としての規範意識の涵養

#### <方 策>

- (1) あらゆる機会を通じて規範意識の育成及び身だしなみ指導を充実させ、社会人として通用するルール、マナーを身に付けさせる。
- (2) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成し自転車事故ゼロを目指す。自転車運転時のヘルメット着用を推進する。
- (3) 良好な人間関係を築く基礎となるコミュニケーション能力を向上させるとともに、挨拶を自分から進んでできる生徒を育成する。
- (4) 学習等に落ち着いて取り組める現在の環境を維持するために、教室内の整理整頓、貴重品の管理及び美化活動を定着・習慣化し、安全・安心な学校という校風を堅持する。

### 5 保健・相談活動

#### <目 標>

個々の生徒に配慮した教育活動

#### <方 策>

- (1) 体罰根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。また、SOSの出し方に関する教育を推進し生徒の健全育成を図る。
- (2) スクールカウンセラーと連携した教育相談体制の充実及び教育相談連絡会の定期的な開催や校内研修により生徒情報を共有し、特別な支援を必要とする生徒への指導を充実させる。
- (3) 防災教育、避難訓練を地域と連携して計画的に実施し、生徒の健康や安全に対する意識の向上を図り、「自助」「共助」の実行力を養う。
- (4) 薬物乱用防止やセーフティ教室等を通して、心身共に健全な生徒の育成を図る。
- (5) 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に保健体育や家庭科の授業、部活動等とおして、体力向上と食育の充実に努める。

## 6 グローバル人材育成教育

### <目 標>

系統的・計画的なグローバル人材育成教育の推進

### <方 策>

- (1) 保健総務部を中心に海外学校間交流推進校事業を組織的に推進し、「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせグローバル人材を育成する。オンライン英会話、海外体験研修、海外修学旅行、国際交流、英語プレゼンテーションコンテストなどを系統的に実施する。
- (2) ALTやJETの活用及び外部検定試験の実施等により、英語4技能を一層伸長させ、グローバル人材育成教育を推進する。
- (3) 日本の伝統文化の良さを理解し発信できる生徒、互いの文化を尊重した交流ができる生徒を育成する。

## 7 募集・広報活動

### <目 標>

積極的な情報発信

### <方 策>

- (1) ホームページの迅速な更新等を通して日常の教育活動を適時に情報発信する。
- (2) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の特色をPRするとともに、存在感を高める。
- (3) 校内・校外における学校説明会、中学校・塾訪問、学校見学会、授業公開、個別相談会を実施する。募集・広報活動を全員体制で展開する。

## 8 学校運営

### <目 標>

経営参画意識と協働意識の醸成及び適切な予算編成執行と教育環境の整備

### <方 策>

- (1) 企画調整会議、職員会議等、各会議の運営改善及び業務の効率化を図る。
- (2) すべての教職員が職責を果たし、スクール・ミッションの実現を図る。
- (3) 教育課程の確実な実施に向け、各教科・科目の到達目標、評価規準等の細部を明確に定め、カリキュラムマネジメントを構築する。
- (4) 若手教職員の育成、中堅教員の指導力向上に向け、各職層のベテラン教員の経験を活かした職場内でのOJTや教員相互の授業見学等の学び合う機会を増やし、教職員の育成を図る。また、校内研修を計画的に行い、教職員の資質向上を図る。
- (5) 校内ネットワーク等を活用し、ペーパーレス化の推進を図り、迅速な情報共有を行う。
- (6) 組織的かつ効率的な業務の遂行及び統合型校務支援システム・教育ダッシュボード等のデジタル技術の活用により、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図る。各自の働き方に合わせて、教職員が少なくとも月に1回は定時退庁し在校等時間の縮減を図る。
- (7) 執務環境の整理整頓、クリーンデスクに取り組み、日頃から個人情報保護を徹底するとともに、ミスを事故にしない組織的な業務運営を行い、サービス事故を未然に防止する。体罰・不適切な指導やハラスメント等のサービス上の課題とは無縁な教育を行う。
- (8) あじさいウィーク、学校開放、ボランティア活動等を通して、「地域に根ざし、地域に信頼される学校」づくりを促進する。
- (9) 経営企画室の業務進行管理と合理化を徹底し、経営参画型の経営企画室として機能させる。
- (10) 自律経営推進予算の執行状況について、四半期毎の資料を提示し適正管理するとともに、費用対効果やコスト意識をもった予算執行・要望のあり方を全教職員に定着させる。
- (11) 一般需用費のセンター執行を適切に行う。
- (12) 施設設備の安全管理及び修繕の早期発見、即時対応を推進する。

#### IV 今年度の重点目標（数値目標）

##### 1 学習・進学指導の充実

- (1) 授業満足度（興味・関心向上） 80%以上  
（R6実績68.2%・R5実績64.5%・R4実績58.2%）
- (2) 授業以外の学習時間（9月調査）1学年、2学年ともに2時間以上  
（R6実績 1学年：0時間43分 2学年：0時間50分）  
（R5実績 1学年：0時間54分 2学年：データなし）  
（R4実績 1学年：0時間44分 2学年：データなし）
- (3) 勉強と部活動の両立 80%以上  
（R6実績70.8%・R5実績68.2%・R4実績64.3%）
- (4) ICT教育満足度（端末活用） 70%以上  
（R6実績54.9%・R5実績50.7%・R4実績44.6%）
- (5) 大学入学共通テスト出願率 90%以上  
（R6実績87.8%・R5実績90.8%・R4実績97.7%）
- (6) 国公立大学合格者 15名以上  
（R6実績9名・R5実績4名・R4実績19名）
- (7) 早慶上理合格者 15名以上  
（R6実績15名・R5実績13名・R4実績5名） ※ 延べ数
- (8) GMARCH合格者 120名以上  
（R6実績99名・R5実績139名・R4実績103名） ※ 延べ数
- (9) 成成獨國武明学合格者 85名以上  
（R6実績71名・R5実績84名・R4実績84名） ※ 延べ数
- (10) 日東駒専合格者 170名以上  
（R6実績160名・R5実績153名・R4実績188名） ※ 延べ数

##### 2 特別活動・部活動の推進

- (1) 学校生活満足度 90%以上  
（R6実績84.7%・R5実績77.4%・R4実績77.5%）
- (2) 学校行事満足度 95%以上  
（R6実績93.7%・R5実績86.8%・R4実績77.6%）
- (3) 部活動加入率 95%以上  
（R6実績90.6%・R5実績89.9%・R4実績94.5%）

##### 3 グローバル人材育成教育の推進

- (1) グローバル人材育成教育（国際理解教育）満足度（新規）  
85%以上

##### 4 学校広報活動の充実

- (1) 学校見学会・説明会参加中学生数1400名以上  
（R6実績1171名・R5実績1241名・R4実績1094名）
- (2) 中学校・塾訪問数 250校以上  
（R6実績78校・R5実績データなし・R4実績データなし）
- (3) 入学選抜最終応募率（推薦）2.50倍以上／（一般）1.50倍以上  
（R6実績2.43倍／1.20倍・R5実績2.43倍／1.39倍・R4実績1.65倍／1.09倍）

##### 5 適切な予算執行と教育環境の整備

- (1) 一般需用費のセンター執行割合 55%以上  
（R6実績51.3%・R5実績54.4%・R4実績59.6%）